

ほん屋

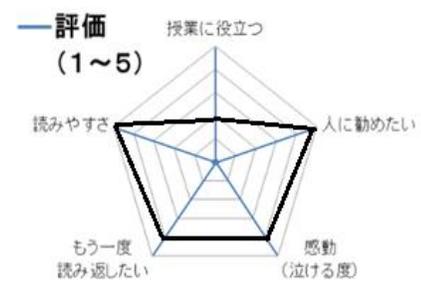
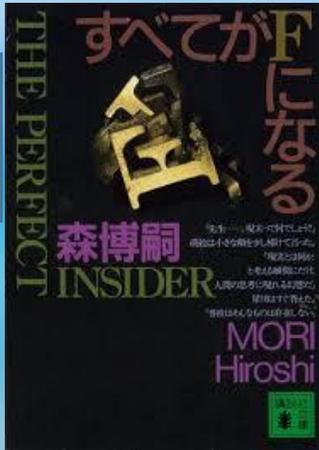
2018(平成30)年 8月
16号店

店主：学生図書委員 5年
(義村・平良・涌井・仲間)

もうすぐ期末テストですね。テスト勉強の場として、または勉強の息抜きとして図書館へ足を運んでみてはいかがでしょうか。そして、8月10日から学生の長期貸し出しを行っています！普段本を読まない方も、本を一冊手に取ってみてはいかがでしょうか。
※この発行紙は、学生が作るニュース（図書館発行）です。
ほん屋” of the students, by the students, for the students.

メディア情報工学科教授
正木 忠勝先生

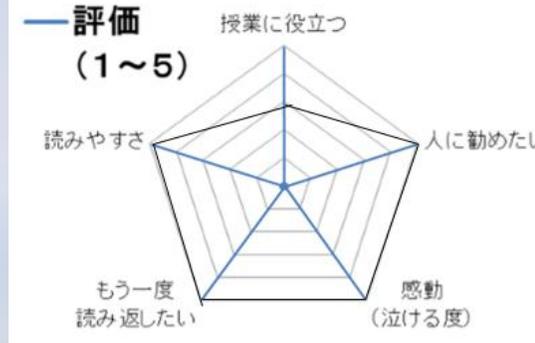
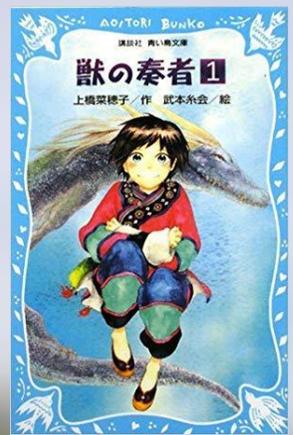
すべてがFになる
(森 博嗣)
請求記号913.6 / Mo45



メディア生は「ダメメディア」と言われたり、「#メディアを許すな」というハッシュタグがTwitterで作られたり、なにかと他学科の学生から嫌われています。でも、メディア生は1024という数字に美しさを感じるだけの健気な存在なのです。
天才プログラマーが密室で殺された。そのトリックとは。すべてのメディア生必読の書です。

本科5年
生物資源工学科
比嘉 咲

獣の奏者
(上橋菜穂子)
請求番号913.6 / U36
(図書館には青い鳥文庫
シリーズで8冊あります)



主人公であるエリンは、賢く好奇心旺盛な女の子。獣ノ医術師である母と2人、幸せな生活を送っていたが、とある事件をきっかけに母を亡くす。その後、蜂飼いのジョウンに拾われ育てられる。その後、母と同じ獣ノ医術師を目指し、学校の師や友達、そして物語のカギともなってくる王獣との出会いを果たす。自身の夢を追う中で、王獣と闘蛇の関係、それらの秘密を握る民族、そして王政府、それらの根深い渦の中に巻き込まれていく。

独特の世界観であり風景や登場人物の感情表現がとても繊細である。しかし、児童書ということもあり、とてもすんなり読める作品となっている。

この作品に初めて出会ったのは小学生の頃だった。あの頃は単純にファンタジー作品として面白いと感じたが、今、改めて読んでみると、この世に生きる人間と動物たち、そしてそれを取り巻く様々な現状について深く考えさせられる。

シリーズものになっており、外伝を含め全5巻での構成となっている。独特の世界観が溢れる、上橋菜穂子ワールドにあなたも一度、触れてみてはいかがでしょうか？

図書館は夏休みも利用できます！

夏休み期間中も図書館は開放されています！
課題や卒研の参考図書がほしい…
などあったら是非図書館へ！
開館日は館内の案内やしおりにて確認ください



編集後記

すべてがFになる図書館にあったんですね。時間作って自分も読んでみたいです。
また、去年アニメ化されたキノの旅シリーズが書庫のほうにおいてあるのでぜひ読んでください。